別紙

ＩＣＴ活用工事（ブロック据付工（港湾））計画書

当該工事において、施工プロセスの各段階および作業内容において、

ＩＣＴを活用する場合は、左端 のチェック欄に「レ」と記入する。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 施工プロセスの段階 | 作業内容 | 採用する技術番号（参考） | 技術番号・技術名 |
| □ | ③ＩＣＴを活用した施工 |  |  | １　据付ブロックの位置と目標据付位置をリアルタイムに可視化する技術※「①超音波によるリアルタイム水中可視化（水中ソナー）」「②ＧＮＳＳによる位置決め（ＧＮＳＳ）」「③方位・船体動揺の計測、補正（慣性航法装置等）」「④水中音速による距離補正（水中音速計）」の機器を組み合わせて、対象物の計上と位置を確認できる技術を用いた施工」を想定しているが、調達が困難である場合や使用条件が合わない場合等は監督員と協議の上施工内容を決定する。 |
| □ | ④３次元測量 |  |  | １　マルチビームを用いた深浅測量２　空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量３　無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量※３次元測量は、ブロック据付工の数量算出、出来形確認に使用することを目的とするのではなく、完成後の維持管理のための完成形状を把握するためのデータを取得することを目的とするため、ブロック据付完了後、構造物が完成形状となった場合にのみ行う。※複数以上の技術を組み合わせて採用しても良い。 |
| □ | ⑤３次元データの納品 |  |

注 1) ＩＣＴ活用工事（ブロック据付工（港湾））の詳細については、ＩＣＴ活用工事（ブロック据付工（港湾））特記仕様書によるものとする。

注 2) 具体的な工事内容及び対象範囲については、契約後、施工計画の提出までに、発注者へ提案・協議し決定する。